

枡形跡

敵を減速させた仕掛け

道路は枡形で直角に折れ曲がっています。当初は、城を防御するために考案されたものですが、このような急カーブは、敵の突撃時の勢いをなくさせたため、攻撃されている側に近くの建物の2階から階下の敵に向けて発砲することを可能にする機会をもたらすことを意図した仕掛けでした。この仕掛けは枡形として知られ、(文字通り「箱型」です)、米の計量に使われた正方形の木製の箱、枡にちなんでいます。

枡形は、中山道の宿場町のすべてにありました。将軍、徳川家康は1600年に日本全土の支配を手中に収めてからも、それまでに家康が倒してきた西日本の大名に疑念を持ち続けており、宿場町を自分の軍が敵と戦うための防衛拠点と見なしていました。また、それと同時に枡形は、宿場町を無法者らの襲撃からも守りました。